

## 南区自治協議会（第 6 期）を振り返って

南区自治協議会会長 小田 信雄

### 1 はじめに

本市が政令市に移行して 10 年が経過した平成 29 年 4 月に、第 6 期南区自治協議会がスタートいたしました。

私が、第 1 期、第 2 期の区自治協議会草創期以来、6 年ぶりに区自治協議会委員に就任してみて、当時、区自治協議会の審議のかなりの部分を占めていた合併建設計画が終了し、第 3 期から始まった区自治協議会提案事業が加わっていました。また、第 2 期の振り返りとして 8 区の自治協議会全体で取りまとめ、市長に提言した「学校と地域の関わり」、「コミュニティの活性化」、「海岸林の保全」、「区の交通」の 4 つの地域課題が未だ道半ばであることを痛感いたしました。地域課題が明確になっても、年度や委員の交替を重ねる中においては、議論の深まりに結び付き、さらには具体的アクションプランへの深化や行政との協働への足跡が感じられないことに、焦りさえ覚えたほどでした。このことは、『協働の要』と言われる区自治協議会がその役割として、何を、どうして、どのような方法で議論すべきなのか、行政と協働するということはどういうことなのか、この基本を委員も行政も共通認識として持ち合わせていませんでした。発足以来 10 年の経過のなかでは、未だ成熟していなかったと言えるかもしれません。

いわゆる区自治協議会の役割の一つ目は、市及び区の政策が形成されるその過程に、市民の各界各層の意見を区自治協議会の議論として参画し、その政策方針の精度をより高くより正確なものに仕上げていくために協働することです。役割の二つ目は、実施された政策（区政）の検証と評価を市民の視点からの確に議論をし、更なる効果を導き出すということです。

これが、新潟市の指し示す『自治』と『分権』と『協働』のまちづくりの原則です。この原則を南区自治協議会に定着させることを目標とし、会の運営に努めてまいりました。

### 2 取組内容・成果・課題

#### (1) 全体会について

##### ア 会議運営方法の見直し

議論するテーマと報告だけで済む事項をきちっと分けて、議論すべきテーマ

について意見交換できれば、もっと区自治協議会が活性化するのではないかと、区長マニフェストなど区政運営に係る事項について議論を深め、区政に反映すべきではないかと、との意見が委員のなかからありました。

このような意見を踏まえ、平成 29 年 10 月から会議開催通知（資料の事前送付）の際、議事案件と報告・連絡事項を以前よりさらにきちんと分けて通知することとし、会議のなかでも報告だけで済む事項は簡潔に終わらせ、議論が必要な事項は時間をかけて議論することとし、メリハリのある会議運営に努めました。

また、平成 29 年度は、区長マニフェストのなかから中間評価が必要と思われる項目を絞って、10月の全体会から3回にわたって委員の意見をお聴きし、区政運営の参考としていただくこととしました。

平成 30 年度は、「部会の役割検討特別部会」の報告書に沿って、各部会で区長マニフェストについて検証し、全体会で報告して情報共有する方法に変更しました。部会に付託することにより、さらに活発な議論になったと思っています。

区政運営にかかる評価の仕組みをきちんと構築することにより、区民等と市の協働の要として機能させていくための一歩が踏み出せたのではないかと思います。

## イ 南区自治協議会委員研修会の開催

市内全区の研修会に加え、区独自研修として秋葉区と合同で委員研修会を開催しました。

平成 29 年度は、新潟市アグリパーク、農業活性化研究センターを視察し、その後、「自治協議会のあり方」をテーマにワークショップ形式による意見交換会を行いました。

平成 30 年度は、新津鉄道資料館、株式会社エフエム新津を視察し、その後、「第 6 期区自治協議会の振り返り」などをテーマに意見交換会を行いました。他区の実践や考え方を学ぶことができた貴重な機会となりました。

## (2) 部会・提案事業について

### ア 第 1 部会

第 1 部会は、公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画等の分野を所管する部会です。

第 6 期では、軌道系公共交通機関のない南区にとって重要な問題である区バス・住民バス・乗合タクシーの利活用について重点的に審議し、特に高校生や高齢者などの交通弱者からいかに利用してもらえるか、区役所と協働しながら取り組みました。

高齢者の方が見やすい時刻表の作成や地域の茶の間などでの公共交通出前講

座開催の提案により、一部の区バス路線で利用者が微増傾向となり、一定の効果が見えました。

一方で、南区唯一の高校である白根高校生の利便性を考慮した運行経路を設定し、高校へのPRも行いましたが目に見えた効果がでていないことや、白根さつき野ルート、東部ルートの2路線の利用者減に歯止めがかからないという課題も残りました。中高生の減少は少子高齢化の進行に伴い、ますます顕著になってくることが予想されることから、今後はこの点にも目を向けながら、課題解決に向けた議論を行っていく必要があります。

また、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、平成30年度は、区長マニフェストのなかから「区バス利用者数、乗合タクシー利用者数」、「総合防災訓練参加数、自主防災組織全23組織の訓練実施、自治会別の空き家データの構築」について検証を行い、9月の全体会で検証結果を報告しました。

本部会で取り組んだ主な提案事業は、南区公共交通PR事業、南区防犯・防災啓発事業です。

南区公共交通PR事業では、区バスなどを利用する人にわかりやすい情報紙を作成し、全世帯に配布するとともに、イベント会場でのPRや区バスの車内を季節ごとに装飾して区バスに親しみをもってもらい、利用者数の増加につながるよう工夫しました。これらの取り組みにより、普段、バスに乗らない子どもたちが区バスに興味を持ち、親も含めたPRにつながりました。

区バスなどの利用が特定の人に偏っている傾向にあるため、これらの取り組みを通じて、いかに認知度を高めていくかが今後の課題です。

また、防犯・防災啓発事業では、区内の新小学1年生へ交通安全用反射材を配布するとともに、第5期に作成した「安心・安全ステッカー」を委員の自家用車に貼り付けて“ながらパトロール”を行う「南区安心・安全みまもり隊」の活動に引き続き取り組みました。今後は、南区防犯協会、青少年健全育成協議会などと連携することにより、区を挙げた取り組みとなるよう検討していきたいと思います。

## イ 第2部会

第2部会は、健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画等の分野を所管する部会です。

第6期では、少子高齢化対策について、重点的に審議し、取り組みを進めました。高齢化対策では、集落が点在する南区において、地域の茶の間をいかに活用し健康寿命を伸ばし元気な高齢者を増やしていくかなど、地域の実情を持ち寄り議論を深めました。健康診断の受診率を上げるための対策や出会い・結婚を求めている人への対策についても審議し、解決策を模索しました。

また、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、平成30年度は、区長マ

ニフェストのなかから「ミニドック型集団健診受診者数」、「地域の茶の間設置件数」について検証を行い、9月の全体会で検証結果を報告しました。

本部会で取り組んだ主な提案事業は、南区家族ふれ愛事業、出会いの場づくり事業、親子コンサート開催事業です。

南区では、少子高齢化対策の一つとして、家族のつながりを大切に、温かい家庭をつくることを目的に、11月22日が“いい夫婦の日”であることにちなんで、平成24年度から11月を南区「家族ふれ愛月間」と定めて、南区家族ふれ愛事業に取り組んでいます。第6期においても、「家族のふれ愛」をテーマに、区内の小学4年生による絵画展と中学1年生による標語・川柳展を開催するとともに、家族のふれあいの大切さなどをテーマとした映画上映会を開催しました。

出会いの場づくり事業では、未婚化・晩婚化対策を目的として、独身の男女を対象に、婚活イベントを平成29年度に初めて開催しました。今年度も引き続き開催し、それぞれ7組、5組のカップルが誕生しました。

平成29年度は、親子コンサート事業として、子育てを頑張っているお父さんお母さんのために、子どもたちと一緒に楽しめる「親子で楽しむハッピーライブ2018」も開催しました。

これらの事業を通して、少子高齢化に少しでも歯止めがかかり、南区に愛着を持って、南区で暮らしたいと思う人を一人でも増やすことの一助になるよう考えています。

しかし、家族ふれ愛事業を何年も実施しているにもかかわらず、区自治協議会委員になって初めてこのような事業の存在を知ったという声があるのも事実であり、区民へのさらなる認知度向上が今後の課題です。

## ウ 第3部会

第3部会は、産業、観光、文化・スポーツ等の分野を所管する部会です。

平成29年度は、翌年度から特色ある区づくり事業（区役所企画事業）で実施する「南区ルレクチエブランディング事業」の説明を受け、ルレクチエの知名度アップ、交流人口の拡大、新たな担い手の移住促進を図るための方策について意見交換しました。

平成30年度は、地域の歴史・文化を観光資源として使えないか、白根大風呂合戦、重要文化財旧笹川家住宅、しろね大風呂と歴史の館などの伝統行事・施設を区外から観光客を呼び込むための効果的な活用方法などについて議論を深めました。

また、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、区長マニフェストのなかから「重要文化財旧笹川家住宅、しろね大風呂と歴史の館入館者数」、「空き店舗

及び空き家の活用数」について検証を行い、9月の全体会で検証結果を報告しました。

本部会で取り組んだ主な提案事業は、南区魅力発信事業として観光案内看板の設置、南区伝統芸能のDVDの作成、月潟定期市場の活性化に取り組み、南区スポーツ交流事業としてファミリーダンス教室を開催しました。

南区魅力発信事業のうち、観光案内看板の設置は、平成29年度に重要文化財旧笹川家住宅、新潟市アグリパークに、平成30年度に白根学習館に南区観光案内看板を設置し、それぞれの施設を訪れた観光客を区内の別の施設にも周遊していただくきっかけになるよう取り組みました。

南区伝統芸能のDVDの作成は、平成30年度に白根小唄・白根凧音頭の踊り方を解説した映像をDVD化し、後継者不足の解消に努めました。

月潟定期市場の活性化は、平成29年度に2と7の付く日に開設している定期市に合わせた交流スペースとなる休憩所を開設し、月潟市、地元商店街の活性化に努めました。この事業は、南区に4カ所ある六斎市の活性化のモデル地区として月潟地区で実施したもので、この取り組みが他の地区へ波及することを期待しています。なお、月潟地区では、平成30年度以降もこの取組みを継続して実施しています。

また、南区スポーツ交流事業では、親子のふれあいの場づくり、健康づくりに役立てるため、平成30年度に幼児・小学生とその保護者を対象としたファミリーダンス教室を開催しました。

これら事業を一過性のものにしたためにも、重要文化財旧笹川家住宅、しろね大凧と歴史の館などの文化・観光施設や伝統行事に、地元商店街、観光農園などを結びつけ、南区の魅力をどのように区内外に発信していくかが今後の課題です。

## エ 広報部会

広報部会は、広報に関することを所管する部会です。

第6期では、南区自治協議会だよりを各年度3回、計6回発行しました。

区自治協議会委員や部会の活動、地域コミュニティ協議会の先進的な取り組みなどを紹介し、興味を引く紙面づくりに努めることにより、区自治協議会の認知度向上を図りました。

## オ 部会の役割検討特別部会

昨年度から第6期の区自治協議会がスタートいたしましたが、部会の活動は、自治協議会提案事業が活動の大部分を占めていました。そのため、自治協議会提案事業の企画・提案・実施の負担が大きく、本来の部会の役割を果たせていない状況となっており、部会を市民等と区の協働の要として機能させる必要性

を痛感しました。

また、全体会において、区長マニフェストなど区政運営に係る事項について議論を深め、区政に反映すべきではないか、との意見が委員のなかからありました。

このような状況を踏まえ、会長、副会長（2名）、各部会から1名（3名）の計6名で組織する「部会の役割検討特別部会」を平成29年9月に組織し、部会のあり方や今後の自治協議会提案事業の実施方法などを中心に3回にわたって議論し、報告書を取りまとめました。その後、平成29年11月29日開催の全体会で報告し、報告書のとおり改善していくことで了承され、平成30年度から実行に移しています。

### カ まちづくり活動サポート事業

提案事業については、平成29年度までは主に部会が自ら事業を企画・提案・実施していましたが、部会の大きな負担となっていました。

前述の「部会の役割検討特別部会」の検討のなかで、提案事業の一部を区内の地域活動団体から事業募集し、区自治協議会が選定・採択して協働実施することに変更しました。

平成30年度から、「南区まちづくり活動サポート事業」として、地域活動団体から応募のあった11事業を審査して、次の4事業を選定して事業委託しました。

- ・郷土愛に溢れる青少年育成事業（こどもたちのふるさと再発見）  
……………白根第一中学校青少年育成協議会
- ・うすい 大壁画……………臼井地区コミュニティ協議会
- ・「笹川邸」おもてなし事業……………味方地区コミュニティ協議会
- ・白根商店街空き家解消・誇れる地元発信事業……………しろね大風タウンガイド  
コミュニティ協議会など、さまざまなアイデアや能力を有する地域活動団体と連携することにより、提案事業の幅が広がり、今まで以上に効果的な事業展開ができたと思います。

### 3 おわりに

区自治協議会の本来の役割は何なのかを考え、整理する2年間だったと思います。区の施策の形成過程から議論で参加し、あるいは、区にまたがる問題、課題をも整理し、その取りまとめの機能を果たすと同時に、それを検証し、評価を加え、次へつなげるという2つの目標にわすかながら近づいたところも見えます。

平成29年度に組織した「部会の役割検討特別部会」で決定したとおり、今年度は、区長マニフェストの検証を各部会で実施し、全体会で報告することができました。区長からは、「委員の皆様から頂戴したご意見につきましては、速やかに取り

組む事項、中長期的に取り組む事項、予算要求を伴う事項に分類し、それぞれ効果・効率的な事業実施や次年度予算編成の参考とするよう、各課長に指示をいたしましたし、私もしっかり確認していきたいと思っております」という旨の回答をいただきました。

区政運営に参画し、さらに希望と活力のあるまちづくりのための検証と評価を加え、市民と市の協働の要としての役割を果たすことに少しは前進したかとも思っています。

また、会議を活性化するため、全体会において常に多くの委員から発言していただくように心掛けましたが、まだまだ発言が少なく活発な議論を交わすことには至らない状況でした。今後、会議運営方法などをさらに工夫する必要があると感じています。